

2025 年度 傾斜的研究費（全学分）科研費チャレンジ 研究報告書

※本学 HP での公表を前提に記入してください。

【研究費区分】：②科研費チャレンジ（B）

【所属】：都市環境学部建築学科

【氏名】：伊藤喜彦

【氏名フリガナ】：イトウヨシヒコ

【職】：准教授

【主な研究対象】：西洋建築史

【研究課題名】：

中世地中海建築の成立・展開過程に関する研究：周縁・境域・慣性をキーワードとして

【研究実績の概要（400 字程度で記入。図，グラフ等の使用も可。）】

・本研究は、キリスト教世界とイスラーム世界が並立し、古代や近世のような明確な帝國的・領域が不在であった中世地中海世界の建築を対象とし、その成立と展開の過程が、はっきりとしたパラダイムシフトではなく強い慣性を伴った変化によるものではなかったか、という仮説のもと、その実態を明らかにするために、従来の建築史の一般的作法とは異なり、中心ではなく周縁や境域に着目して進めたものである。本傾斜的研究費の支援を頂いたことで、国内外での学会発表、スペインにおける現地調査を実施することができた。また本年度までの研究の成果を国内外の学術論文として発表することができた。

本研究費を用いて実施した主な調査

- ・スペイン・カタルーニャ・ロマネスク調査（2025/9）

本年度の本研究内容に関わる主たる成果

- Ito, Yoshihiko, "Old Columns, New Architecture: Spolia Columns and the Edges of Colonnades in Early Medieval Iberia", *Architectura*, vol.52, 2025, pp. 24-47.
- 伊藤喜彦「13世紀イベリア半島における大聖堂の建設：継承と刷新」『スペイン・ラテンアメリカ美術史研究』vol.26, 2025, pp.19-34.
- 2026/03/30 アテネ・Athens Institute第19回地中海学国際学会パネル発表「Between Continuity and Pause: Late Antique and Early Medieval Churches in Sardinia」

【本支援を用いた研究基盤整備の達成状況について】

・本支援によって、研究が継続でき、科学研究費基盤（B）に再チャレンジすることができ、無事採択に至った。

【外部資金への応募状況】

- ・科学研究費 基盤研究（B）「惰性の建築史：中世地中海建築における技術と形式の「遅さ」に関する

る地域横断的研究」(2026/4/1・2031/3/31、研究代表者、採択)

【研究分担額】

(研究代表者・分担者名,所属,金額 (円))

金額 : 1,000,000 円